主要国の企業業績見通しに改善の兆し
～割高感の修正も進み、株価下げ止まりや反発への期待が膨らむ～

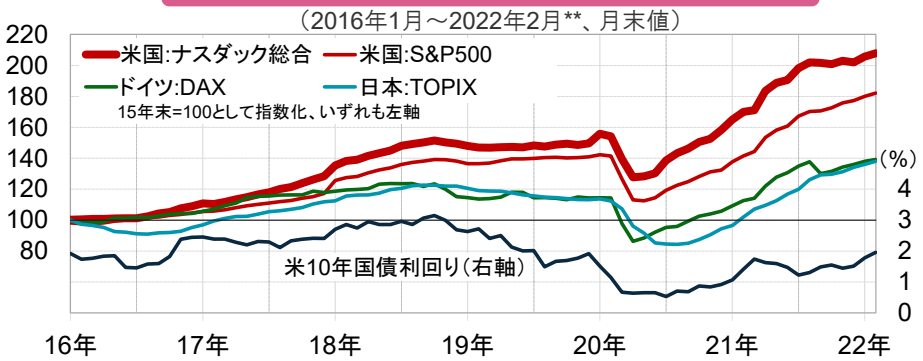
オミクロン株について、重症化リスクはデルタ株よりも低く、感染が拡大しても景気回復を妨げないとの見方などを背景に、昨年12月下旬に株価が世界的に反発したのに続き、今年1月初めには、独DAXや仏CAC、欧州のストックス・ヨーロッパ600、米国のニューヨーク・ダウ工業株30種、S&P500といった主要株価指数が最高値を更新しました。ところが、その後、米国の超緩和的な金融政策の正常化が前倒しされるとの観測が拡がったほか、足元ではウクライナ情勢が緊迫化していることもあり、株価は再度、調整色を強めました。

そうした一方で、下のグラフのとおり、主要株価指数の予想EPS（1株当たり利益）は一時の停滞を脱し、上昇基調に戻りつつあるように見受けられます。しかも、株価調整を経たこともあり、予想PER（株価収益率）が大きく低下（改善）し、特にDAXやTOPIXの場合には、足元の株価が割安であることも示唆されています。このため、今後、予想EPSの上昇基調が鮮明になれば、株価についても上げ基調を再開すると期待されます。

なお、ウクライナ情勢の悪化を受け、ロシアに対する制裁が導入・強化されており、その影響が西側諸国に跳ね返ってくる可能性には注意が必要ですが、制裁が厳しくなればなるほど、停戦が早まると期待されます。また、新型コロナウイルスに関しては、欧米を中心とした規制緩和・解除の動きに伴ない、経済活動の再開が進展し、企業業績の押し上げにつながると見込まれます。さらに、中国当局が同国景気のテコ入れに前向きになりつつあるとみられることも、プラス要因と考えられます。

主要株価指数の予想EPS*と米金利の推移

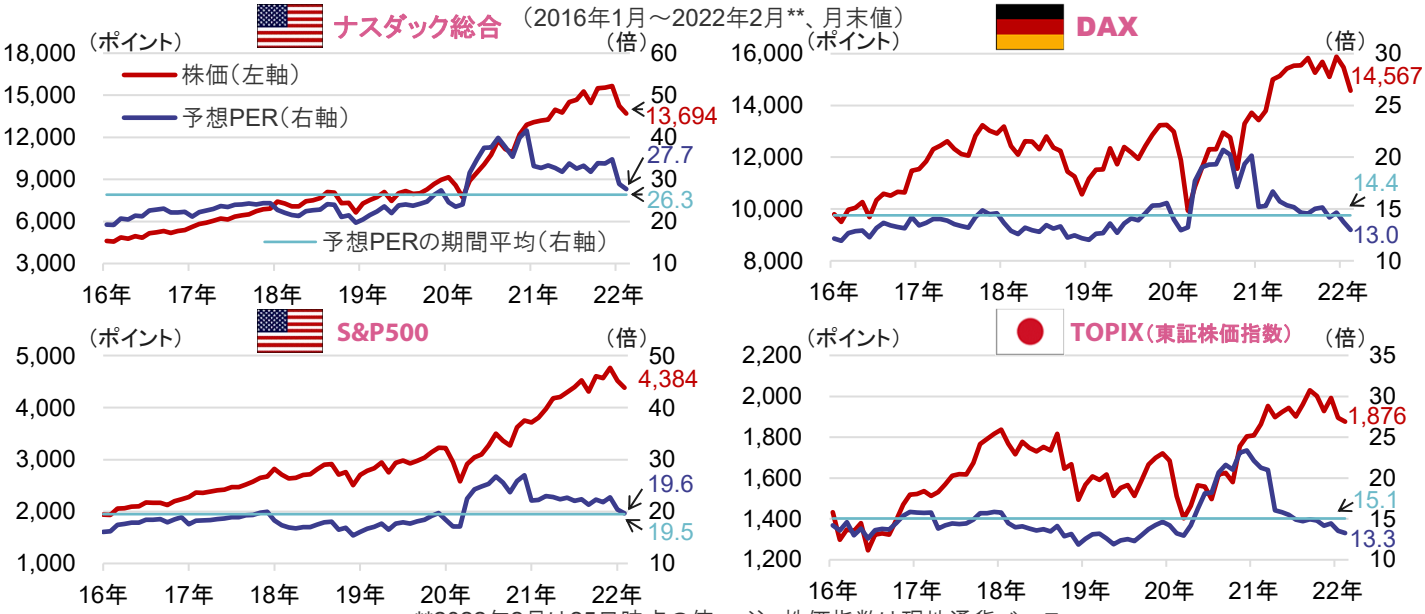
（2016年1月～2022年2月**、月末値）



*向こう12ヵ月ベースの市場予想

主要株価指数と予想PERの推移

（2016年1月～2022年2月**、月末値）



**2022年2月は25日時点の値　注：株価指数は現地通貨ベース

●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成　●上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。